

体験しよう いろいろな職業

北海道新聞

発行所
北海道新聞社
郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
北海道新聞社2010

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp
ご購入申し込みは
0120-464-104

「子ども速報」を発行します

「子ども祭りinいけだ」では池田町の中学生5人が記者やカメラマンの仕事を経験して「子ども号外」500部を発行します。ご覧ください。

子ども祭りinいけだ開幕 参加券手に入れ挑戦しよう



勢揃いした働く車。手前は北電の高所作業車

子供たちにさまざまな職業への関心を高めてもらおうイベント「子ども祭り2012inいけだ」が24日、池田町田園ホールで始まり、3回目となりました。今年の会場には初登場の路線バスや福祉車両のほか、道新ぶんぶん号など働く車18台が展示され、家族連れでにぎわっています。

池田町観光協会を中心とした実行委員会が主催しました。祭りの柱は大きく分けて職業体験、アトラクション、働く車の展示・試乗の三つです。

職業体験は、初めて看護師とネイルアーティスト、テレビカメラマンのコーナーがつく

られます。さらに人気の焼き鳥屋や美容師、銀行員体験など21種類。中でも菓子職人が教えるケーキの「オムレツ」作りなどは大人気です。

職業には、もっぱら民間が担う分野と、福祉の仕事のように民間と行政が協力し合う分野、さらに24時間体制

で治安維持や人命救助に当たる警察や消防などの行政分野もあります。すべて社会に欠かせない仕事ばかり。それぞれのブースで

早めに「参加券」をもらって、その道のプロにどんどん話しかけてみてください。参考になること間違いなしです。



初登場のネイルアートを体験する子供たち

災害対策車

地震や洪水などの災害現場でボディを横に広げると会議室になる。2台連結すると広い。無線、テレビ、FAX、コピー機、衛星電話などが使える。



小麦用コンバイン
十勝では米国製やドイツ製のコンバインが多く活躍している。刈り取った小麦の粒は自動的に大型タンクへ流れ込む。高い運転席からのながめがいい。



大集合 働く車

郵便車両

配達で使うのは郵便車とバイク。特に燃費がよく小回りが利くバイクは、かばんや収納ボックスを備えて大活躍している。重い荷物を運ぶには、運転テクニックも必要だ。



サイドウイング付き除雪車

前方に加え、ボディの横にも除雪板を備えた除雪車。より幅広く除雪することができる。ただ、前と横の除雪板を同時に操作するのはとても難しい。



高所作業車

送電線など高所の電線工事などで使う車。感電しないように絶縁性の素材できているバケットの中で仕事をする。山の中で使う高所作業車にはキャタピラタイプもある。



ぶんぶん号

北海道新聞社が催し会場や事件現場でミニ新聞を作るために出動させるマイクロバス。搭載印刷機はA3判カラー両面を1時間に2400枚印刷できる。

高規格救急車

「走る救急救命室」の異名を持つ。救急救命士が乗り込み、急病人や、負傷者を処置しながら病院へ運ぶ。作業しやすいように屋根を高く造ってある。



シートベルト体験車
荷台に2人乗りシートと装置を備え付けたトラック。1・4段のスロープを滑走して時速約5キロで前方のゴムフェンスに衝突してその衝撃を体験できる。



中学生が新聞づくり

北海道新聞

発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社2012

号外

こども速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

この速報は「道新ぶんぶん号」で作っています。制作作業をご覧ください。ぶんぶん号は働く車の展示ゾーンに駐車しています。

ぶんぶん号を見学しよう

仕事体験の記事に挑戦

池田で「子ども祭り2012

子どもたちにさまざまな職業への関心を高めてもらう催し「こども祭り2012 in いけだ」が6月24日、池田町田園ホール前広場で開かれました。職業体験の1環として池田中学生5人が記者の仕事に挑戦。手分けして取材し、写真を撮ってこの号外を作りました。



郵便車の前で記念撮影する家族連れ

新聞作りは昨年まで小学生が行い、中学生が担当するのは3回目の今年が初めてです。

パティシエの体験では「お菓子の小松」の小松克全(かつまさ)さんが、子どもたちと一緒にオムレットケーキを作っていました。楽しみにしていた人が行列をつくり、抽選で参加者を決めました。小学3年の志田七海さんはお菓子が好きで、お母さんと一緒にクッキー作りをしています。体験を終えて「ケーキを切るのが楽しかった」と笑顔を見せました。小松さんは「子どもたちと

一緒に作業することで、一度ケーキ作りの楽しさを感じました」と喜んでいました。

今年初登場のネイルアート体験は、小学生の女の子の人気を集めました。担当の有田博登さんは「やってみたいという声が多かったので、今回開くことになりました」と説明してくれました。

銀行員の体験では、模造紙幣で1千万円分を手にとり、重さなどを実感していました。両親と一緒に砂川市から来た駒野詩月さん(6)は「1千万円は重たくてすごかった」と楽しそうでした。担当していた北洋銀行池田支店の西村清和さんは「本物のお金ではないですが、金額や重さの感じが分かってもらえたらうれしい」と話していました。

池田警察署の展示・乗車体験では、パトカーや白バイに多くの子どもたちが乗り込み、記念写真を撮っていました。地域交通課の太田真義さんは「こういう機会に子どもたちに体験してもらってよかった」と話しました。



熱心に取材する中学生



池田中2年
村上優介

新聞記者の仕事をし、記者のつらさを学んだ。まず相手に対する質問を限られた時間の中で思いつくのは難しい。それをまとめる難しさもわかった。なので毎日見ている新聞を作るのはかなり難しい作業だと思う。これからはじっくり考えて読みたい。

池田中学生が取材しました



池田中2年
松浦 快

職業体験の取材をして、とても楽しかった。ふだん使わないカメラを使った。感想を聞いてみたりするなど、たくさん体験ができた。最初はきんちゃんとして話を聞けなかったけれど、やっているうちにできるようになった。本当に楽しかった。



池田中3年
中川海音

普通は経験することがない記者という仕事を体験でき、とても新鮮な気持ちになった。自分たちで写真を撮り、インタビューをして記事をつくるという作業はとても大変だったが、その分完成した時には達成感がわいた。



池田中3年
清野結衣

私はパティシエ体験取材しました。小さい子がケーキを作り終わった後、笑顔で帰って行くところがとても印象に残っています。記者体験するのは初めてで、学ぶことがたくさんありました。今回の経験は忘れません。



池田中3年
前田圭介

記者をやってみて、最初はまったく知らない人と話すので緊張したが、だんだん慣れてくるとすっかりとできるようになったのでよかった。記者を体験できる機会は簡単にはないので、この体験をいろいろなことに生かしたい。

キャラクターも登場

「こども祭り2012 in いけだ」が開かれた6月24日はあいにくの雨模様でしたが、会場には大勢の家族連れなどが繰り出しました。

池田町田園ホール前広場では、体験コーナーや飲食コーナーなど、さまざまなお店が開き、とてもにぎやかでした。雨が降って危険なため自動車整備体験が中止となり、がっかりする子どももいました。

仕事で使う車両は除雪車やテレビの中継車、小麦を収穫するコンバイン、高規格救急車など約20台がそろい、子どもたちの関心を集めていました。

高所作業車に乗った小学2年の山田颯(はやて)君は「楽しかったけど、高いところぐるぐる回ったのでびびってしまい、お母さんしか見ていませんでした」と感想を話しました。母親の麻未さんは「まだ景色を楽しむ余裕はなかったようです」と笑顔で語りました。

北海道新聞のキャラクター「ぶんちゃん」



などの着ぐるみも登場し、子どもたちと握手をしたり、記念撮影に応じたりしていました。交通安全マスコットの「マナーティ」は係の人を通じて、「運転手の皆さんにはスピードを控え、安全運転を心がけてほしい」と呼びかけていました。



マナーティと記念撮影をする子供たち



働く車が大集合!

